LETTER OF PORT

港のたより

（一社）寒地港湾技術研究センター
COLD REGION PORT AND HARBOR ENGINEERING RESEARCH CENTER

網走港の概要（写真提供：網走開発建設部）

Contents

行事報告
日中韓北極域セミナーの開催報告 …… 2
港湾ニュース
みなとオアシスもんべつ運営協議会が「土木学会北海道支部地域活動賞」を受賞 …… 3
2019年度　寒地土木研究所一般公開開催報告 …… 4
「北海道マリンビジョン21コンテスト2018表彰式」について …… 5
コンクリート工学会年次大会における北海道港湾のコンクリート技術紹介 …… 7
岩内港で初の大規模地震・津波総合防災訓練を実施しました …… 8
網走港修築100周年記念事業 …… 10
釧路港　開港120周年 …… 11
海上小口混載コンテナによる海外輸出実証実験の開始 …… 12
センター通信
「技術基準への適合性を確認する適合性確認制度」に基づく登録確認機関の登録更新について …… 13
平成31年度第2回 CPC 交流セミナー開催報告 …… 13
メールアドレス登録のお願い …… 14
令和元年度北海道開発局優良工事表彰を受賞 …… 14
助成事業報告 …… 15
お知らせ
「ザ・シンポジウムみなと in 小樽」開催について（予告） …… 17
編集後記 …… 18

vol.130
2019.10.16

行　事　報　告

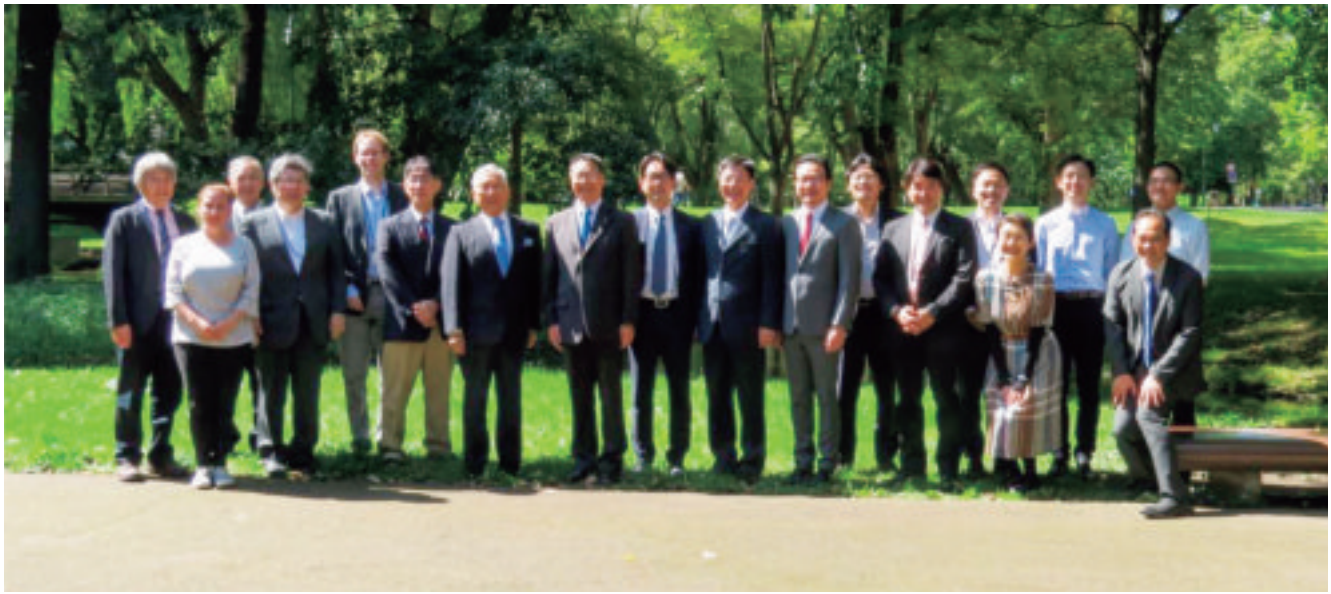
日中韓北極域セミナーの開催報告

令和元年９月３日に北海道大学百年記念会館において日中韓北極域セミナー(North Pacific Arctic Research Community 2019 Meeting in Sapporo)を開催いたしました。本セミナーは、日中韓の北極研究者(理学、工学、政策ほか)の情報交換の場として第６回目の開催となるもので、韓国から韓国海洋開発院(KMI)、中国から上海国際問題研究院(SIIS)、日本からは北海道大学北極域研究センター(ARC)、北大スラブ・ユーラシア研究センター、笹川平和財団、北海道二十一世紀総合研究所、北海道庁の各組織に参加していただきました。

セミナーでは各研究機関の北極域に関する研究の紹介や、北極域とアジア諸国の関係などについて活発なディスカッションが行われました。最後に、次回セミナー(2020年)は韓国で開催することが確認されました。

佐伯代表理事会長による開会挨拶

セミナーの状況


NPARC 2019 Meeting in Sapporo,3rd Sep.2019
セミナー参加者の集合写真

NEWS 港湾ニュース

みなとオアシスもんべつ運営協議会が「土木学会北海道支部地域活動賞」を受賞

紋別市　建設部港湾課

「みなとオアシスもんべつ」では、平成 26 年の認定以降、「みなとからの地域活性化」を目標に、港湾施設を利用した様々な取り組みを行っています。このたび、こうした活動が認められ、「みなとオアシスもんべつ」運営協議会が「平成 30 年度土木学会北海道支部地域活動賞」を受賞しました。

みなとオアシスエリアである紋別港ガリヤ地区は、流氷砕氷船ガリンコ号Ⅱをはじめ、氷海展望塔オホーツクタワー、あざらし保護施設オホーツクとっかりセンターなど、流氷が接岸するオホーツクの環境を生かした施設が集積しており、冬の流氷まつりをはじめとしたイベントの会場となるなど、多くの観光客が集まる観光の拠点となっています。「みなとオアシスもんべつ」では、これらの施設を活用したイベントや景観向上への取り組みを企画・実施し、みなとへの集客と周辺施設の利用促進を図っています。

主な取り組みとしては、オホーツクタワーに接続する親水防波堤「クリオネプロムナード」を背後に、市内学校の吹奏楽団による海洋コンサートを例年 8 月頃に実施しており、同日開催するイベントと連携しながら、「ウォーターフロントフェスティバル」として地域住民が港へ訪れる機会づくりとしています。また冬期には「イルミネーション事業」として、全長 517m のクリオネプロムナードやオホーツクタワーをイルミネーションで装飾し、流氷まつり期間中をはじめ、冬の紋別港の景観向上に寄与しています。

このほか、ガリンコ号Ⅱによる市民を対象にした「みなと見学会」の実施、平成 30 年 8 月には海洋公園において「Sea 級グルメ全国大会 in もんべつ」が開催されるなど、みなとオアシスエリアの施設を活用したイベントが実施され、地域住民や市内外からの観光客等、幅広く紋別港へ足を運んでいただいています。また、2021 年の就航を目指してガリンコ号の新造船も予定されており、より一層の観光施設の充実が図られているところです。

このたびの受賞を励みに、今後も港を核とした地域の活性化を目指し、より良い港づくりに取り組んでまいりたいと思います。

流氷砕氷船ガリンコ号Ⅱ

Sea 級グルメ全国大会in もんべつ

防波堤イルミネーション

氷海展望塔オホーツクタワー

海洋コンサート

受賞式の様子

2019 年度　寒地土木研究所一般公開開催報告

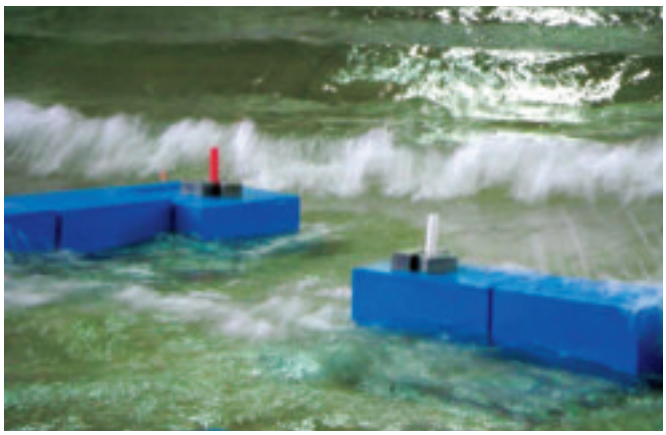
国立研究開発法人　寒地土木研究所　寒冷沿岸域チーム／水産土木チーム

2019 年度寒地土木研究所の一般公開を 6 月 28 日(金)・29 日(土)の 2 日間にわたり開催しました。28 日(金)は雨時々曇りのあいにくの天気でしたが翌土曜日は晴れ、2 日間で 1,243 人のお客さまにご来場いただきました。今年も各研究チーム・研究ユニットが工夫を凝らした研究内容の紹介により、子供達だけでなく大人の皆様方にも、それぞれのコーナーで実験・体験・発見を楽しんでいただけました。

寒冷沿岸域チームでは『波と流氷にふれてみよう！』をテーマに、大型平面水槽の造波装置で起こした波を模型の防波堤に当てる実験、オホーツク海で採取した本物の流氷展示、そして近年地球環境問題の大きなテーマの一つである海洋プラスチックゴミに関するシミュレーションの映像展示などを行いました。平面水槽では子供達も真剣に見学しており、この体験を通して海と波への理解を深めていただけました。流氷の展示コーナーでは、直接流氷に触れる貴重な体験ができたと皆さんには大変好評でした。また、海洋プラスチックゴミに関するシミュレーションの映像展示には多くの方々が来られ、このテーマへの関心の高まりを感じました。

水産土木チームでは『さわって・見て・学ぼう「北の海の生きものたち！！」』と題して、ウニやナマコ、ホッキガイなど、当チームが研究対象としてきた北海道沿岸域に生息する海洋生物を集めたタッチプールを設けました。普段、生きた海洋生物に直接触れることが少ない子供達にとって貴重な経験であり大人気でした。さらに、振動流実験水路による海流の再現や顕微鏡によるゴカイ・イソメ等の生物の観察、これまで行ってきた研究成果を取りまとめたビデオ放映を行いました。来場者の方々は展示物を興味深く見ていただき、理解を深めていただけました。

来年も多くの皆様のご来場をお待ちしております。



大型平面水槽での波の実験では子どもたちも真剣に見学（左：説明状況　右：波が模型防波堤に当たる様子）

生き物の展示物を興味深く見る来場者たち（左:タッチプール　右:顕微鏡による観察）

「北海道マリンビジョン21コンテスト2018表彰式」について

北海道開発局　農業水産部　水産課

令和元年7月2日に「北海道マリンビジョン21促進期成会」（以下、「期成会」という）の総会が100名を超える関係者の出席により札幌市内で開催され、総会に併せて、「北海道マリンビジョン21コンテスト2018」（以下、コンテスト）の表彰式が行われましたので報告します。

各地域で策定された地域マリンビジョンの実現に貢献した優れた取り組みを表彰し、取り組みの更なる推進や他地域への活動の普及を図るため、期成会が主催し、当局の後援によりコンテストを平成20年度から開催しています。

平成28年度の第9回目までは表彰を「総合部門」「個別取組部門」としていましたが、平成29年度の第10回目以降は「最優良賞」「優良賞」「奨励賞」に見直して実施しております。

今回、第12回目となるコンテストでは、最優良賞は根室地域（歯舞地区）マリンビジョン協議会、優良賞は苫前地域マリンビジョン協議会、寿都地域マリンビジョン協議会、奨励賞は遠別地域マリンビジョン協議会、福島地域マリンビジョン協議会及び根室（落石）地域マリンビジョン協議会が受賞し、それぞれ関係者に表彰状が授与されました。

受賞した取り組みの概要は以下のとおりです。

根室地域（歯舞地区）【最優良賞】

新たな地域ブランドとして「金たこ（活たこ）」を確立させたことで、消費者からの需要が高く、高付加価値化や価格の安定化が図られました。本年度は品質管理の徹底に重点を置き、トレーサビリティの確立に向け、加工業者や関西圏の居酒屋と連携し、本格導入に向けた現地調査を実施しました。

現地調査では、「流通過程を把握することができること」、「生きたままの状態で加工業者へ出荷されていること」などの点が、協力店舗から高く評価されました。また、モニタリングとして消費者へ感想を聞いたところ、「非常に鮮度も良く、歯ごたえも柔らかいため、普段、たこを口にしない子供も『金たこ』であれば美味しく食べられる」との評価をいただきました。

これらの取り組みは、地元水産物のPRと販路拡大に繋がり、低迷する魚価や漁業者所得の向上に寄与するとともに、地元水産業の振興の取り組みとして他地域マリンビジョンへのモデルとなることが高く評価されました。

最優良賞の表彰状授与の様子

苫前地域【優良賞】

観光拠点施設である「とままえ温泉ふわっと」に併設する道の駅において、農水産物の直販に加え、雪氷熱を利用した荷さばき所のPR（チラシ配布等）を実施しました。

また、荷さばき所で鮮度保持された水産物の箱にロゴマークを使用し、差別化を図るとともに、当町のイベントである「エビ篭オーナーin苫前」においては、エビの箱詰めの際、発泡スチロールに雪氷熱エネルギーについてのチラシを貼付し、PRを行いました。

さらに、「とままえ温泉ふわっと」のレストランで提供されている「甘エビ丼」のメニュー表に、雪氷熱を活用して鮮度保持している旨の表記を行い、レストラン利用者に雪氷熱エネルギーをPRしています。

これらの取り組みは、全国的にも珍しい取り組みとなっている雪氷熱を利用した水産物の鮮度保持と地域水産物の販売PRとの連携であり、先駆的・独創的な取り組みとして高く評価されました。

寿都地域【優良賞】

官学が連携した水産振興として、平成30年度はホタテ・カキ養殖漁場環境評価やアサリ増養殖、漁港の稚仔魚保育機能などを研究しており、資源管理や増養殖に継続して取り組んでいます。

また、漁業の担い手を確保するため、研修生への生

活支援を盛り込んだ町独自の就業者研修支援事業（長期研修）に取り組み、6名の研修生が制度を活用しながら漁業に従事しています。

さらに、「生炊きしらす佃煮」の原料である主要魚種のイカナゴを「生しらす」として町の新たな特産品とすべく、町・漁協・観光物産協会・町内飲食店が戦略を練り、「生しらすのパック詰め」の販売や「生しらす丼」の提供に取り組みました。

これらの取り組みは、水産業の振興と地域経済の活性化の取り組みとして、他地域マリンビジョンへのモデルとなる総合的な取り組みであることが高く評価されました。

優良賞の表彰状授与の様子

遠別地域【奨励賞】

「Yahoo！」のデジタル人材育成プログラムの一環で遠別農業高校生徒を対象に、地域に埋もれている魅力を発掘し、発信する人材を育てることを目的に「Yahoo！」から高校へ講師を派遣し、マーケティングの基礎からネット広告配信、ネットショップサイトの運営を指導しました。

また、地元のホタテ・タコの入った、えんべつコロッケや遠別産のミズダコなどの商品を生徒のデジタル教材として活用しネットショップで販売を行いました。

これらの取り組みは、地域漁業に関する知識を得る良いきっかけとなり、過疎地域に住んでいても世界中の人に商品を届けられるグローカルな人材育成に寄与する取り組みとして大いに期待されるものであり、関係者の一層の連携により発展や持続性が期待される取り組みとして評価されました。

福島地域【奨励賞】

未利用となっていた養殖コンブ漁業で生じる間引きコンブを惣菜原料として活用しており、さらなる規模拡大を図るため、民間企業が主体となり地元福島町に加工施設を整備しました。

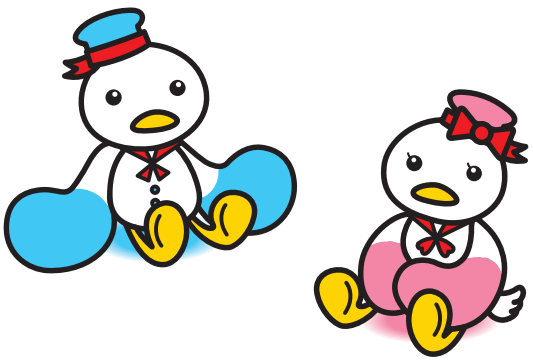
乾燥加工の施設が整備され、これまでより大規模に間引きコンブの加工が可能となり、漁業者の協力をこれまで以上に得ることができました。また、加工施設が整備されたことにより10数名の雇用が確保されました。

これらの取り組みは、未利用水産物の有効活用によって、新たな産業の創出となり地域の雇用に繋がることが期待され、民間企業とのさらなる連携により発展や持続性が期待される取り組みとして評価されました。

根室（落石）地域【奨励賞】

生態系保護・自然景観保全のため、地域住民一体となった海浜清掃活動や地域の貴重な観光資源である高山植物や野生馬、野鳥の宝庫「ユルリ島」の清掃活動を行い、環境保全を図りました。また、生態系を守っているとされる野生馬の高齢化を懸念して、根室・落石地区と幻の島ユルリ島を考える会が実施主体となったクラウドファンディングにおいて集まった寄付金により、島内に馬を3頭放牧し、生態系維持の推進を図りました。

これらの取り組みは、地域の資源である自然環境・景観の保全を図り、他団体との連携により貴重な生態系の保護に繋がることが期待されることから、関係者の支援により発展や持続性が期待される取り組みとして評価されました。



コンクリート工学会年次大会における北海道港湾のコンクリート技術紹介

寒地港湾技術研究センター

7月10日から12日の3日間、コンクリート工学会年次大会が札幌コンベンションセンターにおいて開催されました。

本大会は来場者が10,000名を超えるコンクリート工学に関する全国大会であり、論文発表、新技術の紹介、最近のタイムリーなテーマに関する講演会、セミナー、フォトコンテスト及び見学会等、多岐にわたる行事が行われました。

この中で当センターは新技術等を紹介する「コンクリートテクノプラザ2019」（来場者数約5,750名）において北海道港湾におけるコンクリート技術を紹介しました。

内容は北海道黎明期におけるコンクリート技術として、コスト縮減及び耐久性向上を目的にコンクリートに国内初となる火山灰を採用した小樽港防波堤工事、最近の技術として、メンテナンスフリーを目的に釧路港バルク岸壁上部工で採用した炭素繊維複合材の紹介です。

小樽港防波堤工事については小樽港が見学会メニューに含まれていることもあり、大学関係者、セメントメーカーの関心が高く、また、海外からの参加者も展示したモルタルブリケット、防波堤工事施工写真を撮影し、とても興味を持っているようでした。

また、釧路港で採用した炭素繊維複合材はサンプルを展示したところ、見学者が自らサンプルを曲げ、引張して一般的な棒鋼に比べ、非常に軽量であることを体感していました。

今回の展示には北海道開発局　小樽及び釧路港湾事務所からモルタルブリケット、試験台帳及びパネル等、貴重な所蔵品及び資料を提供いただきました。紙面を借りてお礼申し上げます。

釧路港における炭素繊維複合材の紹介

展示ブース

小樽港防波堤工事に関する展示

岩内港で初の大規模地震・津波総合防災訓練を実施しました
～令和元年度　岩内港大規模地震・津波総合防災訓練～

北海道開発局　小樽開発建設部

令和元年７月 27 日(土)、特定地域振興重要港湾※岩内港では初となる大規模地震・津波総合防災訓練を実施しました。訓練には、北海道胆振東部地震で被災者の支援活動を行った北陸地方整備局大型浚渫兼油回収船「白山」を始めとして、19 の機関・団体から 200 名を超える参加者がありました。

渡邊小樽開発建設部長から訓練開始の宣言、上岡岩内町長、堀田国土交通省大臣官房技術参事官(港湾局担当)より開会挨拶ののち、来賓でお見えになった衆議院議員中村裕之先生、佐藤英道先生、参議院議員横山信一先生よりご挨拶をいただき訓練を開始しました。

開会式の参列状況

上岡岩内町長　開催挨拶

堀田技術参事官　開催挨拶

(来賓挨拶)衆議院議員　中村裕之先生

(来賓挨拶)衆議院議員　佐藤英道先生

(来賓挨拶)参議院議員　横山信一先生

訓練は、北海道南西沖を震源とするマグニチュード 7.8 の地震が発生し、岩内町で震度５強の強い揺れが発生。直後に大津波警報が発表され、最大 4.7m の津波が来襲、その後津波注意報に切り替わり、津波注意報も解除された状況という想定で、①避難訓練、②緊急支援物資輸送訓練、③被災状況調査訓練、④漂流者捜索･救助訓練、⑤広域海上点検訓練、⑥油拡散訓練、⑦油回収訓練の７項目の訓練を予定しておりました。訓練当日は強風に見舞われたため、広域海上点検・油拡散訓練は VTR にて紹介、油回収訓練を中止としましたが、各関係機関・団体による迫力のある訓練が展開されました。

①避難訓練

②緊急支援物資輸送訓練

③被災状況調査訓練

④漂流者捜索・救助訓練

⑤広域海上点検訓練（VTR を上映）

⑥油拡散訓練（VTR を上映）

⑦油回収訓練（悪天候のため中止）

魚住港湾空港部長　講評

訓練後、魚住北海道開発局港湾空港部長から「特定地域振興重要港湾「岩内港」は、平成５年の北海道南西沖地震で実際に被害を受けた。岩内港で大規模な総合防災訓練を実施するのは初めて。机上ではなく現地で車両・船を使い訓練ができたことは重要なこと。関係機関が一同でシナリオを作り上げ、連絡体制を確認し、取組んだことは非常に意義あった。多くの方にご参加いただき無事に訓練が終了したことに感謝する。」との講評をいただき、無事訓練を終了することができました。

今後も、より一層の安全・安心な港湾活動の実現に向けて、関係機関・団体の相互協力体制を強化して、災害時に連携して迅速な対応ができるよう努めてまいります。

また、大型浚渫兼油回収船「白山」にて、訓練開始前には国会議員等を対象とした内覧会、訓練終了後の午後からは、船内の一般公開が行われ、一般公開には100 名以上の方々が見学しました。

内覧会での「白山」船長の説明

「白山」船内の一般公開の様子

※特定地域振興重要港湾

平成 12 年 5 月に国土交通省港湾局が地域の振興に重要な役割を果たすことが期待される地方の港湾として全国で 13 港を選定しました。北海道内では唯一、岩内港が選定されています。

網走港修築 100 周年記念事業

網走市　建設港湾部港湾課

網走港修築 100 周年を記念し、北海道開発局網走開発建設部、網走市との共催で記念事業を開催しました。

大正から昭和、平成、そして令和へと時代の移り変わりに伴い、網走港が地域に果たしてきた役割を知ってもらい、港を身近に感じてもらうため、100 年を振り返る「みなとパネル展」を 7 月～ 8 月、3 会場にて開催しました(7 月 10 日～ 19 日エコーセンター 2000、7 月 26 日網走港第 4 埠頭岸壁(飛鳥Ⅱ寄港に併せて)、8 月 9 日～ 19 日道の駅「流氷街道網走」)。

網走市民を対象に「市民みなと見学会」を飛鳥Ⅱ寄港(7 月 26 日)に併せて開催しました。内容としてはバスに乗車して小麦集出荷施設内の見学等港内をまわり、網走港湾事務所所有の監督測量船に乗船し、海上からの港の見学も行いました。

飛鳥Ⅱ寄港時、岸壁からみなとオアシス網走の中核施設である道の駅「流氷街道網走」までの誘客用シャトルバスを無料で運行し、乗船客の方々にも港内やみなとオアシスエリアを見ていただく機会を設けました。

100 年を振り返る「みなとパネル展」

市民みなと見学会（海上からの港見学）

市民みなと見学会（小麦集出荷施設見学）

道の駅行きシャトルバス

釧路港　開港 120 周年

釧路市　水産港湾空港部 港湾空港振興課

釧路港は、明治 32 年(1899 年)8 月 4 日に普通貿易港に指定され、昭和 26 年(1951 年)には重要港湾として指定となり、令和元年(2019 年)に開港 120 周年を迎えました。

この間、国際貿易港としての競争力の強化を図るべく、外資コンテナ用ガントリークレーンの新設にあわせた国際コンテナターミナルの拡張などの整備を進めるとともに、耐震・旅客船ターミナルが平成 23 年(2011 年)に供用開始となり、近年は多くのクルーズ船が寄港するなど、港湾機能の高度化に努めてきました。

耐震・旅客船ターミナル

また、平成 23 年(2011 年)5 月に国から酪農業・畜産業の基盤強化や競争力強化、並びに国民に対する安全安心な食糧供給を目的とする「国際バルク戦略港湾」の指定を受け、平成 26 年(2014 年)度から、大型パナマックス船の入港が可能な水深 14m の施設整備を進め、平成 30 年(2018 年)11 月に全国で最初となる国際バルク戦略港湾の施設整備が完了し、平成 31 年(2019 年)3 月からは釧路西港開発埠頭㈱による運営が開始されています。

バルク関連施設

・釧路港開港 120 周年記念写真展

第 72 回「くしろ港まつり」の開催期間である、8 月 2 日から 4 日までの期間で釧路市観光国際交流センターにおいて、釧路港開港 120 周年を記念し、釧路港の歴史を振り返る写真展を開催しました。

写真展については、釧路開発建設部港湾事務所や釧路新聞社などの協力により資料を提供いただき、明治後期からの状況をはじめとして、釧路港の時代の移り変わりを写真によって紹介しました。

また、同時に、今まで釧路港に寄港したクルーズ船の紹介パネルやクルーズ船からの記念品も公開したほか、平成 30 年度に実施したクルーズ船フォトコンテストの入賞作品も展示されるなど、多くの市民の方々が会場を訪れ、熱心に写真や記念品に見入る姿がうかがえました。

釧路港開港 120 周年記念写真展
（釧路市観光国際交流センター）

海上小口混載コンテナによる海外輸出実証実験の開始 ～道産食品輸出チャンネル OPEN ～

北海道開発局　港湾空港部　港湾計画課

国土交通省北海道開発局では、道産食品の輸出促進を目的に、海上小口混載コンテナによる台湾への輸出実証実験を開始しました。

実証実験では、輸出した道産食品を現地のアンテナショップで販売することや、現地のバイヤーと商談することなどを通じて輸送コスト・通関手続き・購買者のニーズ等を把握します。

8 月 29 日、9 月 20 日には、一般社団法人北海道国際流通機構の鳥取代表理事を講師に招き、札幌市内で実験に関する説明会を開催しました。

国土交通省北海道開発局では、第 8 期北海道総合開発計画において道産食品輸出額 1,500 億円を目標にしており、これまでも輸送コストや海外での嗜好の調査を目的に小口混載輸送による実証実験を行ってきました。

説明会では、実証実験の概要の外、今年から新たに試験運用を開始したホームページ「道産食品輸出チャンネル」を紹介しました。

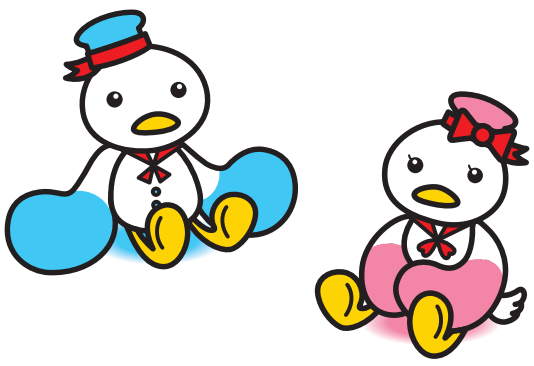
鳥取代表は、台湾のバイヤーと道内の食品業者を引き合わせるマッチングサイトで、「経験のない事業者にも積極的に登録してもらい販路拡大に生かしてほしい」と話しました。

説明会に参加した道内企業からは、「台湾ではどのような商品に人気があるのか知りたい」、「これまで食品分野は扱っていなかったが、この実験をきっかけにトライしてみたい」と積極的な意見をいただきました。

詳細及び実証実験への参加はこちらから：http://hi-do.or.jp/project/

説明会に関するプレスリリース
https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/release/splaat000001l9wg-att/splaat000001opfw.pdf

国土交通省　北海道開発局　港湾空港部　港湾計画課
工藤港湾技術専門官による趣旨説明

（一社）北海道国際流通機構　鳥取代表理事による事業説明

説明会の様子